

産業・環境に関すること

提言に向けた視点

農業の振興に向けて

食糧（品）自給率の向上は子孫の代までひびくもの
地域密着型の都市農業を目指して
都市に溶け込む農業をめざして

商業の振興に向けて

お買い物は「商品価格」だけで決めないで（品質、コストも考慮して）
ニーズに合わせたげんきな商業を
思いやりのある地域密着型の商業

地場産業の振興に向けて

地場産業や技術のPRから知名度を上げる
このまちにも「フードマイレージ」の少ないすばらしい産物があります

自然環境・環境保全の取り組み

このまちは私たちが守ろう
あなたがこのまちを作る主役
このまちはあなたが作る
水と緑の再生から地域のつながりを深める
「川のまち」 寝屋川市は水辺の復活から

ごみ・リサイクル活動

「リサイクル・リユース」の推進
「再生・再利用」のすすめ（使えば資源、捨てれば「ごみ」）
清掃活動やごみの減少に対するお礼から、自然な地域協力型のエコ活動へ

農業の振興に向けて

食糧（品）自給率の向上は子孫の代までひびくもの
地域密着型の都市農業を目指して
都市に溶け込む農業をめざして

課題・問題点・評価

- ・農地は貴重な景観でもある
- ・農地が減少している
- ・農業は生業としての成り立たない
- ・地元での購入が少ない

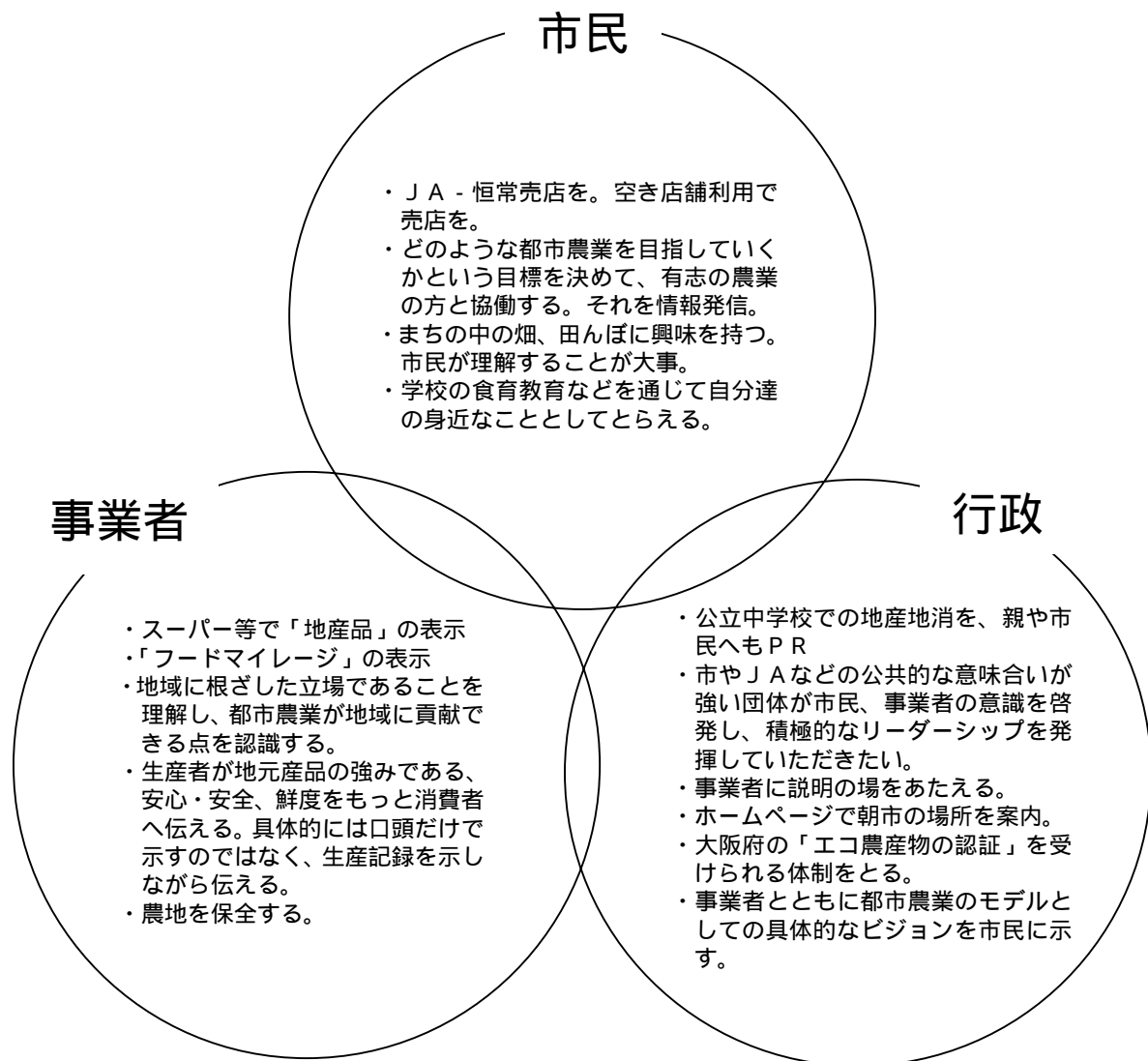
課題解決のために必要なこと

- ・食育として農業を生かす
- ・もっと地産地消をしてはどうか
- ・せせらぎ公園で朝市ができないか
- ・農ある風景を市民に認知してもらう必要がある
- ・農業者も市民も“都市の中の農”について再認識、啓発すべき
- ・都市の中の農業・農地の必要性を市民に積極的にアピールする

部会からの提案

- 都市農業のモデルとして情報発信
- ・都市農業のあり方（モデル）を全国に向けて情報発信するぐらいの行政、市民の取り組みを実現する
- ・市民とのかかわりの中で都市産業を成り立たせる
- 地場産品のPR
- ・地場産業の魅力（安心・安全・鮮度等）を多くの世代にアピールする
- 学校との連携・交流
- ・学校給食に野菜を納入している農業者を学校に招き、ゲストティーチャーとして子ども達と交流を図る
- 地元食材の活用
- ・地場産品の販売と料理方法を教える

それぞれの関わりや取り組み内容(アイデア)



商業の振興に向けて

お買い物は「商品価格」だけで決めないで（品質、コストも考慮して）
ニーズに合わせたげんきな商業を
思いやりのある地域密着型の商業

課題・問題点・評価

- ・物価が安い
- ・大規模店や商店が多く買い物に便利
- ・香里園東側の改造に期待している
- ・大型店は賑わっているが商店街の元気がなくなっている（共存共栄でなく一人勝ち）
- ・商店街に学生等が立ち寄る店が少ない

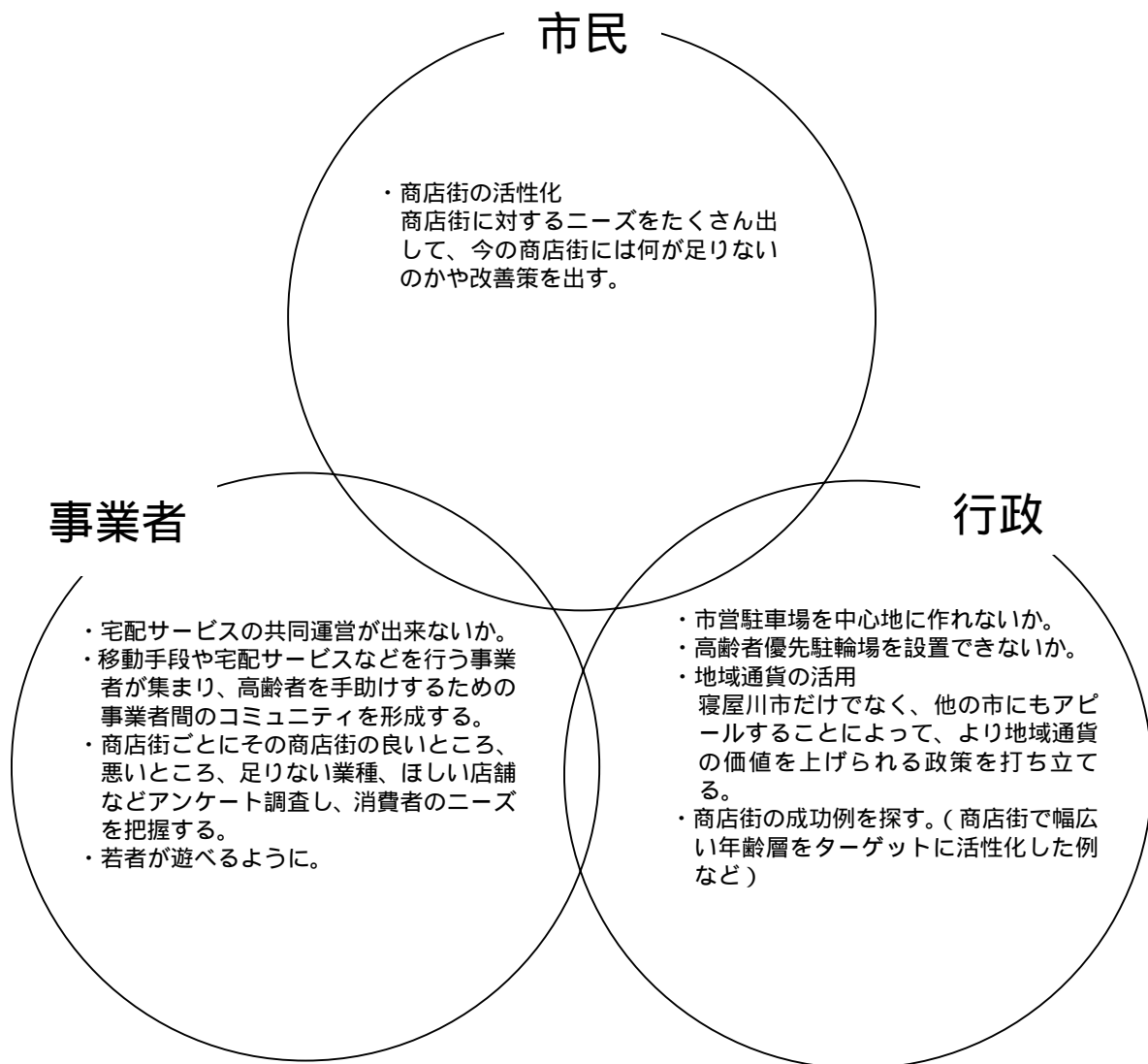
課題解決のために必要なこと

- ・高齢化社会に商店街が近く品数が多いことが望ましい
- ・生活必需品の市内での消費量は一定。客の獲得合戦に終わりはないむしろ指向の多様性に見合った地域密着型で高齢者の需要に応えられるものがある
- ・歩行者・自転車が安心して通行できる道が確保できれば、住民も増えるのではない
- ・買い物を宅配してくれる、少し遅くなっても。店がふえたらな！
- ・宅配サービスの話がでました。ボランティアを募れば小規模店舗でも出来る？小規模農業
- ・タウンくるのような小型バスや無料タクシーなどを運行して、離れたところ（市内）への移動をラクにできるようにしたい
- ・全体的に弱者に優しい町にして公平感を持てるように
- ・ひったくりや空き巣などの犯罪の多いまちというイメージを払拭する（訪れる人を増やす）
- ・人が増えたとしても、まちが一丸となって監視し合うことで、商業を振興できるのではない
- ・商店街で空店舗が発生しても賃料が高止まりしているため、次が入らないでシャッター通りとなっていく。賃料を下げてでも店舗を入れ、活性化につなげる。そのためには地権者の協力が必要

部会からの提案

- 高齢社会などへの対応
 - ・高齢化社会に対応した地域密着型の品揃えに
 - ・宅配サービスの充実
 - ・安心して買い物に行ける道路の整備
 - ・移動手段の確保
 - ・弱者にやさしい公平感のあるまちに
- ニーズの把握
 - ・市民へのアンケート調査や、意見を聞いてニーズを把握する。
- 商店街の活性化
 - ・商店街の店舗更新の促進（空き店舗を減らす政策を）
- 地域通貨の活用
 - ・地域通貨の活用を促す（げんき通貨など）

それぞれの関わりや取り組み内容(アイデア)



地場産業の振興に向けて

地場産業や技術のPRから知名度を上げる

このまちにも「フードマイレージ」の少ないすばらしい産物があります

(地産地消(農業)とも関連あり)

課題・問題点・評価

- ・ 中小企業が多い
- ・ 住工混在で住環境があまり良くない
- ・ 大企業もなく市内で働ける場が少ない
- ・ 寝屋川市の産業の特色がない
- ・ 後継者不足
- ・ 産業の誘致活動が出来ていない

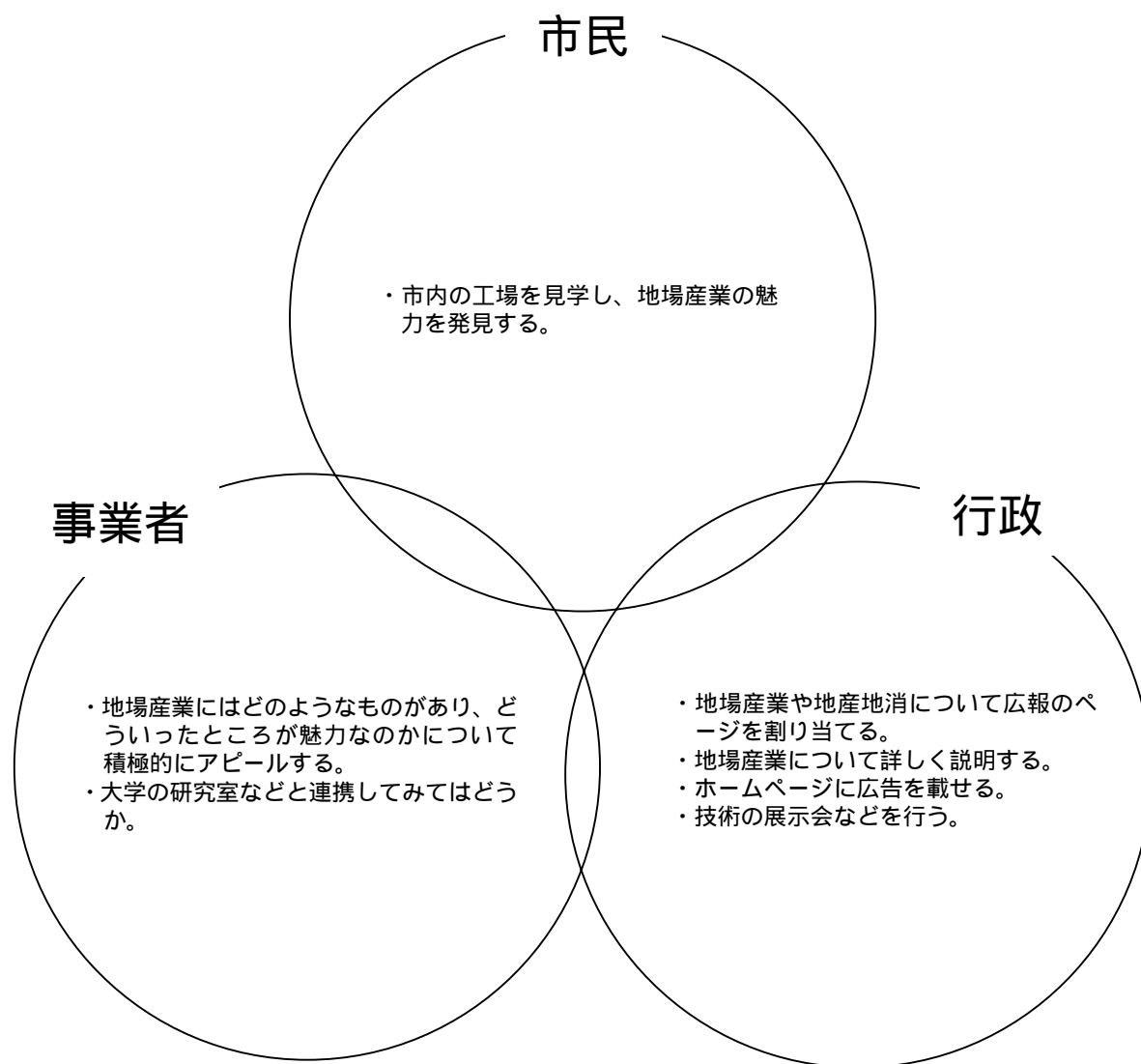
課題解決のために必要なこと

- ・ 幹線道路沿いに物流センター／ターミナルが出来つつある様子(第三次産業が振興か)
- ・ 有名にはなっていないものの、ごまのカタギ食品や自動車部品の生産などにおいて、優れた技術をもっている
- ・ 寝屋川から働きに出る人と、寝屋川市に働きに来る人の人口はほぼ同じである。
(もっと情報交流、情報交換ができるのでは)
- ・ 何を寝屋川市の特色とするのかをはっきりさせる必要がある
- ・ 産業誘致に関する寝屋川市の税制は?
- ・ 優れた技術があまり知られていない
- ・ 東西の道路の整備拡幅などが必要

部会からの提案

- 産業振興策
- ・ 産業振興策が必要
- アンケート調査
- ・ テーマを絞って実施をする。((例)「あなたはこの市が住みやすいと思いますか」)
- 中小企業の誘致
- ・ 産業誘致活動として用地が確保できないか
- 優れた技術のPR
- ・ 公共施設のフロアーなどを利用して優れた技術のPR、産業展など多く行う
- 市内工場の見学
- ・ 親子で市内の工場を見学する取り組みなどで地場産業の魅力を知る

それぞれの関わりや取り組み内容(アイデア)



自然環境・環境保全の取り組み

このまちは私たちが守ろう
あなたがこのまちを作る主役
このまちはあなたが作る
水と緑の再生から地域のつながりを深める
「川のまち」 寝屋川市は水辺の復活から

課題・問題点・評価

- ・川や水路が活用されはじめた
- ・市の名前が川
- ・最近では川で鯉が泳いでいる
- ・自然環境を課題とした活動団体がある
- ・下水道の整備により水路がきれいになった
- ・淀川がまちづくりに生かされていない
- ・立ち入りが出来ない水辺が多い
- ・緑の連続性が乏しい
- ・市内中央部、住居が多く緑が少ない
- ・川の色が茶色である
- ・人工的な緑で終わっている
- ・自然環境がどんどん減っていく

課題解決のために必要なこと

- ・最近、開発で里山がつぶされた。復元（ミチゲーション）が必要
- ・法的に可能な限りこれ以上、里山はつぶさないで（現状での再利用を考えよう）
- ・子どもの頃から自然の中で遊び学ぶ活動をする場を
- ・人工的なまちづくりではなく、不便さ（草刈りなど）があるが、自然を残したまちづくりに取り組む。そのためには各地域の方々の理解・協力が必要になる。
- ・ヤクルト容器のようなものを利用して、水質改善の活動を自発的に行う
- ・水を流す機能を持った施設としての川・水路を人々の憩いの場、生き物の生息空間に
- ・川で遊んだり自然観察をして、川と友達になることで、人々の関心を水路・水辺に向ける
- ・淀川は国の管理。しかし市域の河川、まちづくりに活用する
- ・寝屋川市に隣接した河川や水路ではホタルが飛んでいる。環境が整えば市内でも可能。

部会からの提案

- 市民との協働
 - ・まちづくりに当事者以外の市民も入ったワークショップをする
 - ・市内水路のアドプト制度を確立する（支援策も含めて）
- 小学校との連携
 - ・小学校の総合学習に市民団体などが積極的に関わることでつながりを広げる
 - ・自然や水辺の活動を発表する「場」をつくることで、水辺や自然を扱った総合学習を活性化させる
- 積極的な緑化活動
 - ・植樹を行い、緑を増やす（街路樹など）
 - ・造園的、人工的な緑ではなく、昔のような自然に近い草木を増やす
- PR活動
 - ・自然環境保全活動へ積極的な参加を図る。活動状況の紹介、広報活動
- 水路の再生プラン
 - ・1級河川寝屋川の再生プランに対応する 水路の再生プランを策定する

- 緑化の誘導

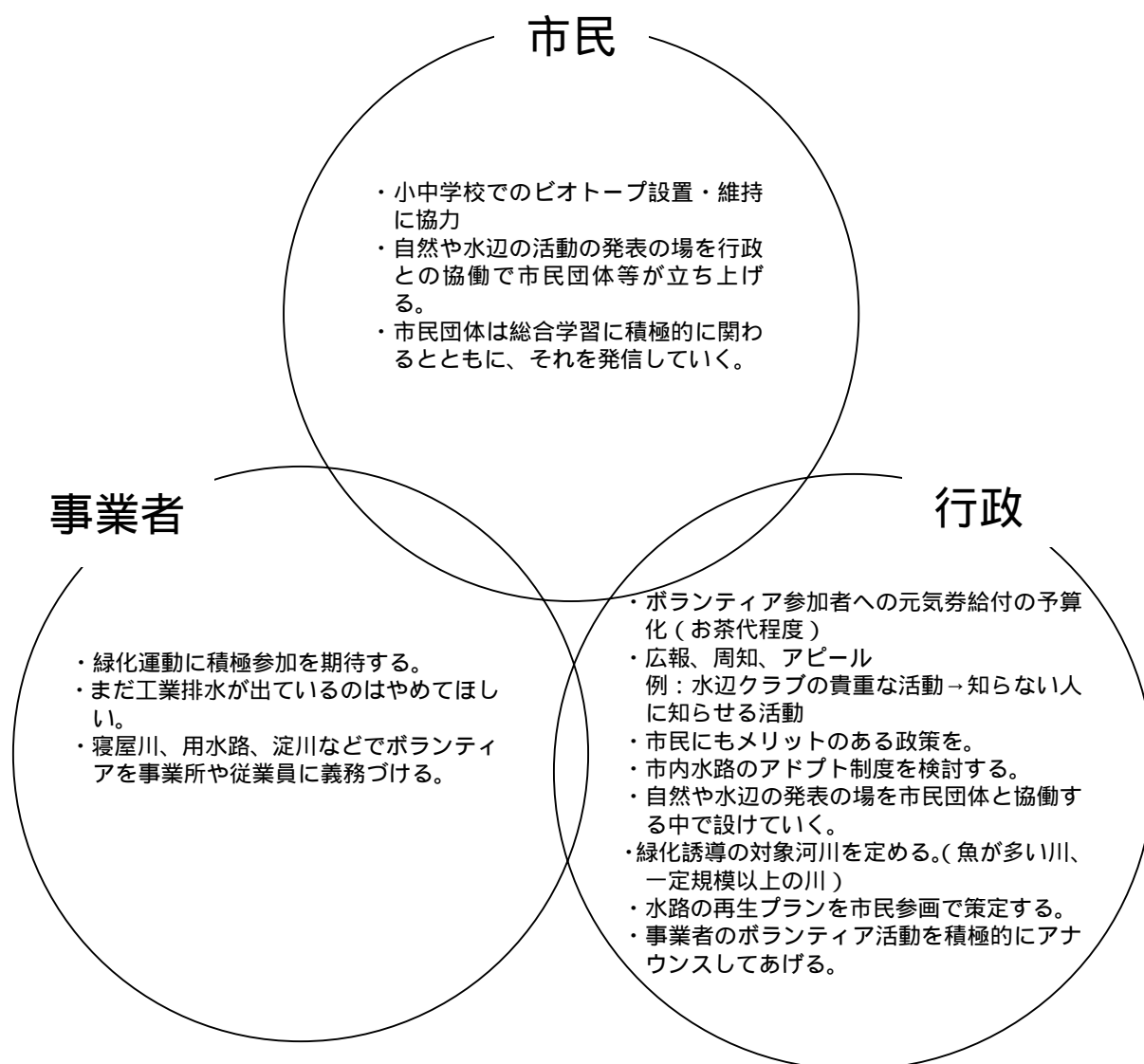
- ・一定規模以上の水路に接して開発する場合 開発行為に伴う緑地確保を水辺に義務づける。

- ・水質改善のためのイベントやボランティア活動を行う

- ホタル舞う水路の復活

- ・市内の河川や水路でホタルの舞う環境づくりをすすめる

それぞれの関わりや取り組み内容(アイデア)



ごみ・リサイクル活動

「リサイクル・リユース」の推進

「再生・再利用」のすすめ（使えば資源、捨てれば「ごみ」）
清掃活動やごみの減少に対するお礼から、自然な地域協力型のエコ活動へ

課題・問題点・評価

- ・清掃活動など市民が協力的である
- ・環境改善へのボランティア参加が増えた
- ・ボランティア活動としてごみ拾いや清掃活動を行っている
- ・不法投棄やポイ捨てが目立つ
- ・河川にごみを捨てる人が多い

課題解決のために必要なこと

- ・小中学校で「ゴミ分別」の教育を徹底する
学校で出る「ゴミ」の分別作業から徹底すれば出来るはず
- ・日常の生活から遠い存在の水路を生活の中で必要とする場所にすることで（生活空間）ゴミを減らす

部会からの提案

- 小中学校との連携
- ・小中学校で教育した「ゴミ分別」を自宅に持ち帰り、親の分別をチェックしてもらう（親のゴミ分別が不十分で混ざって出すケース多い）
- 「協力にお礼」の看板設置
- ・「ゴミを捨てないで」より「きれいにして頂いてありがとう」を看板にする
- ごみを出さない運動の徹底
- ・レジ袋不要／持参運動推進
- ・多重包装お断り運動推進
- ポイ捨ての規制
- ・ポイ捨てをすると罰金を支払う制度（川に監視カメラを設置）をつくる
- 身近なところからの清掃活動
- ・玄関前の掃除から始める（昔は自分の家の前の道は各自で掃除していたと思う）

それぞれの関わりや取り組み内容(アイデア)

